

人と防災未来センター 平成 26 年度事業評価

* 評価基準 (4 段階評価)

S : 大変評価できる
 A : 評価できる
 B : あまり評価できない
 F : 評価できない

評価単位	評価	委員コメント
展示	S	<p>・22 年度以降は平均して年間 50 万人の来館者があり、これは企画展のみならず巡回展の開催など、センターの大いなる努力の賜であろう。</p> <p>・展示においても、阪神・淡路大震災 20 年メモリアル特別展示(南海トラフ巨大地震等の展示を含む。)などで工夫が見られる。さらに地域の団体や企業、観光客などの来館促進にも注力している。</p>
資料収集・保存	A	<p>・所在不明な資料提供者の調査や許諾の意向取得などは地味で面倒な作業であるが、それらが継続的に行われている。</p> <p>・出前資料活用促進も今後とも大いに促進すべきであり、センターの知名度向上にもつながるであろう。</p> <p>・紙資料を対象とした資料の永年保存法への取り組みも進展しつつある。</p>
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成	A	<p>・大学などの研究機関とは違って、災害事象への実務的な取り組みを通じての育成が行われており、こうした実績を持った研究者が他の機関や組織へと請われて転出している。</p> <p>・研究を主たる業務としながらも、災害現場でのセンターの活動にも参画して、センター事業に貢献するとともに自らの経験にもつながっている。</p>
災害対策専門職員の育成	S	<p>・トップフォーラムやマネジメントコースの意義と成果はこれまでも高く評価されてきたが、これに加えて防災初任者 1 日講座やフォローアップセミナーの開設など、さらに充実を図り、有意義な事業へと発展している。</p> <p>・海外の諸機関が類似した事業を始められように、国際的なトップフォーラム事業を提唱してはどうか。</p>
災害対応の現地支援・現地調査	A	<p>・調査を行うのみでなく、レポートの作成と提供などを通じて、地域への貢献をも果たすべきであろう。すなわち調査が将来の支援につながる事が大切である。</p> <p>・地域住民による NPO 活動などによる現地支援は迅速に行われている。支援と調査の在り方の再構築や行政のみならず現地の人々との連携も大切である。</p>
交流ネットワーク	S	<p>・災害メモリアル KOBE、ぼうさい甲子園、マスコミ向けの災害報道セミナー、国際フォーラムなど、さまざまな交流事業に取り組んでいる。</p> <p>・海外の防災展示館などとの交流や支援活動も行われていることは評価しうる。また、JICA との連携も効果が出始めるなど、国際的な交流が進みつつある。</p>